

女性に雇用の場を
「エニース」社長

かわさき 川崎 昌子さん



女性だけのベンチャー「エニース」(本社・大阪市)を
経営する。年間契約した顧客
に専属のスタイリストがつ
き、オーダーメイドのビジネ
ススーツを中心にシャツや靴
までセットで提供する。
スタイリストは顧客の好み
を聞き、似合う色や生地、フ
アッションを助言し、探すも
する。寒のキヤラクターを引
き出すという意味で「キヤラ
リスト」と呼ばれる。男性の
顧客なら、春夏、秋冬のオー
ダースーツを1着ずつと、既
製品のワイシャツ4枚、ネク

タイ4本、靴2足のバックで
年に24万円だ。

2年前に始めて顧客は口
ミで広がった。多忙な中小企
業の経営者ら男性が8割。ビ
ジネス用の服選びに悩む女性
もいる。昨年の売上高は約1
億2千万円、顧客は約千人。
従業員約20人でこなす。

起業のきっかけはシングル
マザーが増えたことだった。
「仕事に対する意欲も責任感
も強いのに、子どもを抱えて
働ける先がない。そういう人
のための雇用創出ができれば」
と思った。注文服のアド
バイスや探すは女性の仕事と
して適し、育児に合わせた働
き方もできると考えた。

61年生まれ。自らも出産、
子育て、離婚を経験した。会
計事務所の経理事務から再出
発し、英会話スクール、カフ
エ、プティックの経営と、働

く場を切り開いてきた。資金
繰りに窮したり、指をかぶつ
たりしたこともある。

「逃げるなって急いで、次
のステップの自分を想像す
る。すると体の中に、抗体み
たいなんができ、成長できた
やんって感覚になれる」

(文・高橋万見子
写真・大塚 努)